

市長記者会見記録

日時：2025年1月21日（火）14時00分～14時14分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

早速質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

《JR東日本南武線連続立体交差事業について》

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。よろしくお願いいたします。

先週、JR南武線の連続立体交差化の事業認可が下りたということで、これまで紆余曲折があった事業かなと思うんですけども、近隣の住民の方々の中には、大分待ちくたびれた方もいらっしゃるかなと思いますし、これからも多くの期間と事業費を要する事業のかなと思うんですけども、今回の事業認可を受けての思いをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 この踏切に起因します事故ですとか渋滞の解消、あるいは踏切によって地域が分断されているとか、あるいは児童の安全、通学の安全等々、そういったことが解消できる大変大切な事業だと市では捉えておまして、この間、コロナの影響もあって、なるべく事業期間を短縮する、工期を短縮する方法だとか、あるいはどうやって、工費を削減させる方法ということで、別線高架工法にするという形でやってきましたので、この間の取組をしっかり踏まえて着実に事業を推進していきたいと思っています。

【東京（幹事社）】 この事業、重要な事業ではあると思うんですけども、一方で、市民の方にとっては、用地取得の当事者としては複雑な思いもあろうかと思うんですけども、今回なるべく短期間でそれを進めていくということではあるのですが、市長の立場からの呼びかけがあれば教えていただけますでしょうか。

【市長】 本当に事業を着実に、早期に行って、そして事業効果を早期に発現させることが大事ですので、これから具体的な用地交渉だとかに入っていきますので、なるべく御協力、なるべくというか、ぜひ御協力をお願いしたいと思っています。また、様々御不安だとか御相談もあると思いますので、しっかりと現地で相談できる体制を整えていきたいと思っています。

《川崎市心身障害者「二十歳を祝う会」について》

【東京（幹事社）】 話題が変わりまして、先週末、心身障害者「二十歳を祝う会」が開かれて、川崎市ではこれをもって心身障害者としての会は終了するというのを聞いていますけれども、背景には運営の担い手の負担があったりということがあったようですが、今後

インクルーシブな取組を進めていくということでもあると思うんですけども、改めて市長としてのお考えを伺えますでしょうか。

【市長】 かなりこれ、伊藤市長時代から始まったという経緯がある、親の会の人たちを中心に、あるいは特別支援学校の先生方、これは市、県にかかわらず、みんなで作ってきただけでなく、とても温かい集い、祝う会になっていたのも、今年でもって一つの一区切りということで、関係者の皆さんの感慨もひとしおだろうなと思うんですけども、やはり今御指摘いただいたように、運営する側としては非常に、親の会の皆さんの負担も大きいということでもありますし、これからの時代、全てインクルーシブでやっていくという考え方もありますので、そういった形で進めていきたいと思っておりますが、まだいろいろ課題があるとは思っています。かなり介助者の方だとか親御さんだとかがサポートに入っている体制でできているので、障害が軽度な方などは、いわゆる市が主催しているものに一緒に参加されている方もいるんですが、極めて重度な障害をお持ちの方というのはどういったサポート体制が取れるのか、合理的な配慮とはどこまでできるのかということに、ちゃんと思いをしておかなければならないなと思っております。

担当課にも私からしっかりその辺りを親の会の人たち、あるいは保護者の皆さんとしっかり話し合っただけでなく、ほしいというお願いをしています。結果的に、事実上、来られないみたいなことがないように、そういった配慮をどこまでできるのかということ、しっかり皆さんとそこがないように調整していただきたいということをお願いしています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

《SNSでの誹謗中傷について》

【共同（幹事社）】 共同通信です。

話題変わりました、先週末に兵庫県で百条委員会の委員を務められていた元県議の方が自死されるという事案がありまして、背景にSNSの誹謗中傷があったのではないということも指摘されています。SNSでの誹謗中傷については、法整備や条例の整備の必要性も指摘されているところですけども、今年、神奈川でも参院選や川崎市長選を控える中、地方自治体としてSNSの誹謗中傷についてどのように向き合っていくべきか、お考えがあればお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 いわゆるヘイトスピーチもそうですけど、それは、いわゆる外国籍の人たちだけではなく、全ての人たちにしっかりとSNS上での誹謗中傷みたいなものは、なくしていかなければならないと思っております。それは、本当にプロバイダーの人たちの協力も要るんですけども、まず意識をしっかり高めていくということとはとても大事だと思います。いかに攻撃的で命を奪ってしまうような危険性があるのかということ、そういったリテラシーを高めていくということとはとても大事だと思います。学校の授業でやっている部分もありますけれども、これは国を挙げてというか、みんなでそれを高めていかなければならないのではないかなと思っております。

【共同（幹事社）】 まずは規制するというよりも、ヘイトスピーチでも動画を公開されて

いましたけれども、啓発というところに力を入れていきたいというお考えでしょうか。

【市長】 自治体としてはそういうことなんですけれども、これから公職選挙法の中でとか、いろいろ課題はあると思うんです。今、国のほうでも話題にはなっているようなんですけれども、本当に民主主義の根幹を揺るがすようなことになりかねないという、ちょっと危険性があるなど私自身も思っているんです。ただ、国のほうでも議論を進めていくようなので、そこに少し期待をしたいと思っています。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。

それでは、各社あればお願いします。

《特別市について》

【朝日】 朝日新聞でございます。

1月に入って経済同友会の方と懇談の機会を持たれたということなんですけれども、市長からどういったお話があって、向こうの反応、要望が何か出ていけば教えていただけますか。

【市長】 私からは、今年の11月に指定都市市長会で取りまとめました提言（素案）というものを私から説明させていただきました。逆に、経済同友会のほうからも、同じく今年の11月、同じタイミングで提言されておりまして、基本的に、それはお互い、みんな、出席した同士で思ったんですけれども、お互いの課題認識と方向性は本当に一致しているねと。少し角度は違うかもしれませんが、認識は全く一緒だということでありました。

非常にいい意見交換ができたと思いますし、今後もこういった理解が経済界にも進むように取り組んでいきたいと思いますし、メンバーの方にもよくそれが伝わったのではないかなと思っています。

【朝日】 出席された同友会の主なメンバーは、どんな方が出られたんでしょうか。

【市長】 同友会の委員会の名前が地域共創委員会というのが経済同友会の中にあるんですけど、その委員長さんがリコーの会長さんでありますので、その方を中心にかなり多くの委員の皆さん、副委員長さん、参加されておりました。ちょっと名刺をそれぞれ、かなり多かったですから、すみません。

【朝日】 分かりました。

ほかの経済団体への働きかけなんですけれども、経団連とかありますけれども、そちらのほうは今後どういうアプローチをされていくんでしょうか。

【市長】 昨年夏から秋にかけても、事務方で経団連との意見交換をさせていただいております。その先はまだ経団連とは詰まっていらないんですけれども、そういうアプローチもさせていただいております。

【朝日】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

《川崎市都市イメージ調査について》

【読売】 読売新聞です。

午前中に発表があった都市イメージ調査で、いろいろな項目でかなり目標を達成したりだとか、他市町村からの見られ方というのも、ここ2年、3年ですごく向上しているんですけども、市長としてこの1年、どういうふうに行ったことがこういった評価につながったかなとお考えでしょうか。

【市長】 本当に速報値を見て、私もびっくりしているというぐらい上がっているということで大変うれしく思っています。今日の定例局長会議でも言ったんですけども、やはり各局が、あるいは100周年の実行委員会の企業の皆さん、団体の皆さんがそれぞれに多彩な取組をしていただいたおかげで、これほどまでに川崎を知って、関わって、好きになるという取組の効果がしっかりと出たんだなと思っていて、強力に、本市のシティプロモーションだけじゃなくて、関わっていただいた全ての皆さんに感謝申し上げたいなと思っています。ぜひこの爆上がり状態が101年目からも続くように、これからもしっかりと発信して、市民の皆さんと一緒に上げていきたいと思っております。

【読売】 その爆上がり状態を続けていくというところで、やっぱり川崎はこういうところがいいというのをさらに推し進めていくために、どういうところに、いろんな、年頭にも絡んでくると思うんですけども、注力されていきたいでしょうか。

【市長】 そうですね、幅広の分野なんですけれども、全ての方たちが地域に関わっていただくということが、やはり関わるということが、自分の地域を意識して人とつながってというところが、幸福感だとか、そういったものにつながってくると思うので、瞬間的なイベントでよかったねというのでは、居住推奨度だとか、そういったものになってこないと思いますので、これからも、100周年で培ったレガシーというものをどうやって川崎の新しい文化というか、ライフスタイルというか、そういったものにつなげていくかということなんじゃないかなと思っております。

【読売】 ありがとうございます。

《JR東日本南武線連続立体交差事業について》

【tvk】 テレビ神奈川と申します。

すいません、先ほどもお話しいただいたんですけども、もう一度、南武線の高架化の期待していることをもう一度お話しいただいてもよろしいですか。お願いします。

【市長】 分かりました。連続立体交差事業というのは、踏切による事故、あるいは車の渋滞ですとか、あるいはそこを歩行する人たちの安全ということを考える意味でも大変重要な事業だと思っています。これまでなるべく工期を短縮して、経費も削減してという工法の見直しなども行ってきましたので、これからは着実に、スピーディーに取組を進めたいと思っています。

【tvk】 ありがとうございます。

【司会】 質問は以上でよろしいでしょうか。

よろしければ、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当